

履き心地が良く、疲れにくいソックス

R×L SOCKS

「足や靴に左右があるのに、靴下にはなぜ左右がないのだろうか？」
この文章を目にした時、「そういえば、私の靴下には左右がない！」と気が付いた。靴を左右逆に履くと非常に気持ち悪いばかりか、歩き辛くなってしょうがないが、靴下ならば全く違和感がない。そもそも靴下には左右がないものが多く（あってもマークが片方にあるだけとか……）、それが当たり前だと思っている方も多いのではないだろうか？ しかし、1977年に世界初の明確に左右のある靴下が発売されている。それが先ほどの文章を掲げる、武田レッグウェア株式会社の「R

×L SOCKS（アールエルソックス）だ。
創業以来、スポーツブランドのOEMをやっており、「靴下はどういうものが良いのだろうか？」と、スポーツ選手から様々な意見を集めている中で、「小指の方はちょっとダボついていて、親指の方は窮屈」「靴の中で靴下がズレないようにして欲しい」など、不満の意見が多かったという。
日本で初めてラーメンや餃子などを食べたときとされる水戸黄門。日本で初めて靴下を履いたのも水戸黄門こと、徳川光圀という説がある。不思議な事に、その当時から、素材以外の靴下の基本的構造は変わっていないという。

その結果生まれたのが特許も取得した左右別設計の靴下だという。足の指の長さに合わせて、親指側を長く・小指側を短く編み、その上、親指側が小指側よりも高く立体的に編む事により、親指側の窮屈感と余り気味の小指側を改善する事で、足へのF-I-T感を増しているのだ。
何故、一般的な靴下がこのような構造ではないのか不思議に思うくらい、シンプルな構造だ。
足に合わせて靴下を作っている為か、履いてみると、確かに心地よい。立ち仕事をしていても疲れにくいような「気がする」、靴の中でもズレにくいので、ウォーキングやランニングなども快適になったような「気がする」。

日本ウォーキング協会認定の商品でもあり、ウォーカーさん達に履いて貰った意見としても、歩いていてもズレない、指が窮屈にならない、その為に、靴の中を気にせず歩く事に集中できる、という意見が多いという。
たかが靴下、されど靴下。足に合った靴選びが大切ならば、足にあった靴下も大切にしない。折角ウォーキングを始めても余計な疲労は避けたいものだ。そこで登場するのが履き心地が良く、疲れにくいソックス。しかし、懸念事項が一つ。洗濯後、左右を間違え、左右、左左というセットで収納しないように気をつけたい。折角の心地良さが台無しになってしまうから。



1 TTR-10 スニーカーウォーク C
¥1,150 (税込) スポーツ界でも定着したぬげにくさ、もぐりにくさ、を中心に開発したスニーカー丈。フィットネスやランニング、ウォーキングにも最適。

2 5本指のタイプは、それぞれ足の指の腹に合わせた立体的構造。履き易く、指先の窮屈さを軽減。
※サイズ・店舗により取り扱いカラーは異なります。

武田レッグウェア株式会社
住所：埼玉県富士見市水子 4993 番地
TEL：049-251-4322
<http://www.bigtoe-takeda.com/>

今までの靴下の構造は足の指の真ん中、中指の部分が一番長い。しかし、実際の足は親指側が一番長いので、履くと踵と親指側が靴下を斜めに引っ張り合うカタチになってしまい、小指の部分がダボつき靴下がねじれ易くなってしまふ。すると、親指に負荷が掛かるだけでなく、靴の中で靴下がズレ易くなる。武田レッグウェア株式会社では、スポーツ選手からの不満を、「靴下のカタチ」を変え、その結果生まれたのが特許も取得した左右別設計の靴下だという。足の指の長さに合わせて、親指側を長く・小指側を短く編み、その上、親指側が小指側よりも高く立体的に編む事により、親指側の窮屈感と余り気味の小指側を改善する事で、足へのF-I-T感を増しているのだ。
「R×L SOCKS（アールエルソックス）」の興味深いところは、「気がする」という感覚的なだけでは留まらないところにもある。信州大学繊維学部感性工学科の清水義雄教授の実験結果で、従来の製品よりも疲れにくく、履き心地も良く、外反母趾の緩和に期待され、F-I-T感が増すという事が数値で実証されているのだ。数値で示されると、説得力がある。